

散り行く花 (1919)

BROKEN BLOSSOMS

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 60分
初公開日 1922/04
公開情報 劇場公開

【解説】

絶対的ロリコンのグリフィスが永遠の少女リリアンに、究極の乙女を演じさせる。ここで彼女の被る苦難は、元プロボクサーの父による虐待。彼の他の大作のヒロインほど大仰な悲運ではないだけに、その逃れられなさは絶望的。名優クリस्पがまた、この希代の憎まれ役に入魂の演技を見せるので、観客の誰もがうすうす、死の他に彼女を解放する手段がないことを予感する。その彼女に想いを寄せるのがバーセルメスの純真な中国商人。本来なら異様な、白人の東洋人への化身も、このバーセルメスにだけは許される。そんな真摯さに溢れた演技で、リリアンと清らかな愛を紡いでいく。後にゴダールによって「勝手にしやがれ」で引用されるラスト・シーンが美しい。瞳は悲しみを湛えているのに、リリアンはその白魚の指で口の端を上向きに歪ませて、最後の微笑を作るのである。

【クレジット】

監督	D・W・グリフィス	D.W. Griffith
原作	トーマス・パーク	
脚本	D・W・グリフィス	D.W. Griffith
撮影	G・W・ビッツァー	G.W. Bitzer
出演	リリアン・ギッシュ	Lillian Gish
	リチャード・バーセルメス	Richard Barthelmess
	ドナルド・クリस्प	Donald Crisp